

《目次》 P1…新年の挨拶 P2・3…失語症者向け意思疎通支援事業の様子
P4…COVID-19 について考える 3 P5…研修会参加記(災害リハ・学術講演会)
P6…秋季士会長会議 P7…災害時安否確認システムの紹介・NET119 の紹介
P8…ふじやま便 P9…今年度を振り返る P10…理事会報告
P11…各局からのお知らせ・編集後記

新年を迎えて ～「おめでとう」はコロナ収束の時に～

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史
(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

2020 年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行するなど厳しい 1 年になりました。感染防止のための外出自粛やマスク着用、ソーシャルディスタンスの徹底、リモートワーク・リモート会議など、日常生活の過ごし方が大きく変化した一年でした。

言語聴覚士の臨床においても大きな変化をもたらしたのは言うまでもありません。言語聴覚士は「コミュニケーション」と「食事」のプロです。対象者に寄り添い、コミュニケーションを図ることや食事の楽しさを再度獲得していただくことを業としています。笑顔などの表情変化はマスクで隠され、対象者との距離はソーシャルディスタンスのため一定を保ち、飛沫防止を理由に十分な発声、呼吸、摂食嚥下訓練は実施されないという状況にまで至りました。

今回の感染症の拡大によって言語聴覚士の業務環境は遮蔽等に配慮した専用の個別療法室(内法による測定で 8 平方メートル以上)と規定されている以上、狭小スペースで換気への配慮が十分でない空間での業務が多く、感染症のリスクが常に高かったことを認識させられました。また、他の医療職と比較しても感染症や公衆衛生に特化した学習を卒前・卒後教育で習得する機会が少ないことにも気づかされ、学ぶべき点も多くありました。

このような状況の中であっても会員の皆様には不安や緊張感を持ちながらも体調管理に配慮し日々の業務に従事され、自身の務める施設をはじめ山梨県の言語聴覚療法を守り、支えていただいております。皆様の頑張り感謝申し上げます。

理事会は例年通りの活動は難しくとも、それぞれの部局での工夫や努力によって前を向いた活動を展開しています。事務局ではオンライン会議システムの購入、運用により理事会の開催を可能にしました。学術局は大切な人材育成を止めることなく、新卒者研修、日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム「基礎講座」を開催しました。1 月からは豪華な講師陣による講演会を 3 回開催します。症例検討会も企画されています。社会局では各施設で実施されているコロナ対策の情報共有を図るための調査を実施し、多くの施設での感染防止策の一助となっております。県士会ニュースの発行やホームページでの情報発信は通常と変わりなく行ってくれています。失語症友の会「ふじやま」運営委員会は 11 月に定例会を 10 ヶ月ぶりに開催し、止まった時間を動かすことが出来ました。失語症者向け意思疎通支援者養成事業は完全な感染防止策を講じながら 40 時間のカリキュラム(座学・実習)を実施しています。その他の委員会でも認知症サポーター養成講座の実施、災害安否確認システムの構築、地域支援事業・訪問リハ事業も進められています。大変な時にもかかわらずこれらの活動に多くの会員が参加し、時にはサポート役として運営に携わってくれたことに理事会は勇気・元気をいただきました。改めて理事会を代表してお礼申し上げます。引き続き県士会活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

コロナ禍の状況はすぐに好転するとは思えません。私たちの生活や言語聴覚療法のスタイルが変わっても我々の果たす役割はこれまでと同じです。人の往来、交流が遮断され、孤独感や、そのストレスからなんとなくギスギスした空気が漂うこのような時代だからこそ、「全人的復権」というリハビリテーションの本来の意味を改めて理解できるのかもしれない。

コロナ禍を皆で乗り越えて、明るく笑顔に満ちた一年になることを期待しています。会員の皆様をはじめ周りの大切な方々の健康を心より祈念いたします。





【経過報告】

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会
委員長 赤池 三紀子

令和3年3月13日修了予定の「失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」では、このコロナ禍の中、順調に講習会は進み、支援者16名は予定どおり12時間の講義と28時間の失語症当事者とのコミュニケーション支援や外出同行支援実習に取り組んでいます。支援者には失語症当事者と会話するのが初めてという人もおり、毎回コミュニケーション対応に苦心しながらも誰もが“当事者の力になりたいから不安だけど頑張る”と意気込みを語ってくれました。

外出同行支援実習 自己チェックシート



到達目標	項目	振り返りのポイント	よくできた	概ねできた	どちらでもない	あまりできなかった	できなかった
I 移動 1)安全面の配慮をする 2)危険時の予測ができる	1 歩行状態に応じた支援をしたか	つまずきやふらつき、転倒のリスク管理	<input type="checkbox"/>				
	2 身体障害についての配慮をしたか	使用する手、障害の状態 患部の保護	<input type="checkbox"/>				
	3 楽いす操作がスムーズに行えたか	ブレーキやフットレスト、段差時の対応	<input type="checkbox"/>				
	4 エレベーターやエスカレーター乗降時の配慮ができたか	事前に降りる階を伝える、混雑時のサポート	<input type="checkbox"/>				
II コミュニケーション 1)さまざまなコミュニケーション技法を用いて本人の意向を確認する 2)自己決定できるように働きかける	5 体調や気分について配慮したか	顔色や表情、緊張していないかなどの観察	<input type="checkbox"/>				
	6 支援方法への希望を聞いたか	文字や絵、身振りの活用と意思の確認	<input type="checkbox"/>				
	7 支援の内容をわかりやすく伝えられたか	文字や絵、身振りの活用と伝わったかの確認	<input type="checkbox"/>				
	8 本人が自己決定できるような声かけをしたか	はい/いいえの質問 選択肢を示す	<input type="checkbox"/>				
III 情報・環境調整・リスク管理 1)外出先、外出場所についての情報収集ができる 2)緊急時などの調整を行う 3)緊急時に対する心構えができる	9 バリアフリー対応について留意したか	トイレ、エレベーター、スロープ等を事前に確認	<input type="checkbox"/>				
	10 外出先でのプライバシーに配慮したか	個人情報等の保護に努め、話さない内容については話さない	<input type="checkbox"/>				
	11 緊急連絡先を確認したか	事前に確認(保険証、障害者手帳、家族の連絡先、緊急505カード、ヘルプマークなど)	<input type="checkbox"/>				

<自身の関わりの中で良かった点・悪かった点>
今日の実習で良かった点
支援者の発音言葉に待たされた

コミュニケーション支援技法スタッフチェックシート



「コミュニケーション支援技法Ⅰ-①」スタッフチェックシート 10月11日(日)						
受講者名:	評価項目	十分	概ね十分	どちらでもない	やや十分	不十分
	1 子供扱いしないで会話ができる	4点	3点	2点	1点	0点
	2 落ち着いた雰囲気でも会話ができる	4点	3点	2点	1点	0点
	3 お互いの表情がわかる位置や視線で話すことができる	4点	3点	2点	1点	0点
・話題によっては思わず友人に対してのようにしゃべり出した時があり、少し寂しい様子が見られた。 ・雰囲気作りは上手で、相手に緊張させないように声かけをしようとしていた。 ・相手の言葉を聞き取るうと顔の位置を変えながら対応する工夫もしていたが、意識してできたかという点では不明。						
受講者名:	評価項目	十分	概ね十分	どちらでもない	やや十分	不十分
	1 子供扱いしないで会話ができる	4点	3点	2点	1点	0点
	2 落ち着いた雰囲気でも会話ができる	4点	3点	2点	1点	0点
	3 お互いの表情がわかる位置や視線で話すことができる	4点	3点	2点	1点	0点
・相手の言葉が聞き取れない時には不安そうになってしまう表情があった。 ・慣れてくると乗っかい表情とことばで対応でき、会話が楽しそうに続いた。 ・外国の地名など当事者が思い出すように一緒に考えこんでしまい、もう一人ほど援助できなかった。						

外出同行支援実習Ⅰ なかとみ 和紙の里の団扇作り支援の様子



外出同行支援Ⅱ（年賀状作り支援）を終えて ※支援者の意見交換より、抜粋（支援者名は仮称）

鈴木さん	短い言葉で会話をするのを心がけたい。当事者に文字を書いてもらうようにアドバイスするタイミングが難しかった。
佐藤さん	学ぶことがたくさんあった。自分も見習いたい。コミュニケーションでの観察することをしていきたい。
高橋さん	当事者を前に緊張してしまう。始めの声かけにつまりやすい。待つことを前回学んだので待つことを意識して実践できたのでよかった。相手に言葉を提供するツールがまだ不十分なのが反省点。
田中さん	せっかちになってしまう。気を付けて、相手の表情を観察しながら、アドバイスできた。
伊藤さん	年賀状づくりという課題があったのでよかった。人見知りなところがあり、自分の声かけで相手がどんな反応か、表情を見てしっかりわかっているか意識できた。当事者の気持ちを読み取るのは経験が必要だが、表情をみて気持ちを汲み取ることを意識したい。
渡辺さん	1対1の初めての支援。これからの支援を考えさせられた。自分が仕事柄、「軽い」（体の障害や言葉の障害）とまず思ってしまったことが相手に伝わってしまったのか、当事者に感じさせてしまった。反省した。関係づくりについて勉強になった。
山本さん	当事者がすごく前向きだった。左手でノートにいっぱい練習していた。最初の声かけが苦手所以他支援者に助けてもらった。支援について「のり押さえましょうか」と聞くと「いい」と言われ一歩引いてしまった。よかったのか。どうすればよかったのか。
中村さん	会社の上司に手伝ってもらいロールプレイの練習してきた。当事者は話をするのか好きではないと言われてしまい困ったが、字を書く練習を頑張っていることを教えてくれた。不安などが表情に出やすいのが課題。マスクでよかった。表情に出ないようにしたい。
加藤さん	どんな年賀状にするのか、見守った。自分で絵を描くことを選ばれた。「あけまして（改行）おめでとう（改行）ございます」と書くところ「あけまして（改行）ございます」と書かれてしまった。隙間があったので後から付け足すことができたが、一緒に文を読みながら確認できるとよかった。
吉田さん	コミュニケーション力のある方（すらすらしゃべってくれたので）、でも文字を写して書くことは話しことばとは違かった。色選びなど、対人援助をするのであって支配であってはいけない。支援と支配の境目がわかった。
山田さん	難しかった点、当事者の最適な支援の方法は？やりすぎと足りないの差が難しい。目指すは自己決定ができるように支援すること。
山口さん	毎回不安。絵や文字、当事者がどのくらい力を持っているのか？どこまで一人でききるのか、何が必要なのかを見極めて支援することが大事。支援者も当事者も十人十色。色々な支援者がいてよかった。

支援者の表情が浮かぶような意見交換の内容でしょう。失語症患者さんといつも接しているSTには慣れている会話援助場面ですが、一般の方々にとってどのくらい大変なことか、実習では毎回認識しながらも、私たちの仕事ってすごい！！と改めてSTの専門性を感じている運営委員たちです。

COVID-19 について考える 3

～Zoom を用いた新卒者研修実施の試み～



企画・開催者の視点から考える

山梨県言語聴覚士会 教育部長 石垣 亮太
(山梨リハビリテーション病院)

猛威を振るうコロナウイルスにより、全国的に勉強会・研修会の集合開催が困難となっている。そのため、現在では、リモート開催という形が主流になりつつある。県士会教育部が行う新卒者研修会も、本年度より Zoom を使用したリモート開催を開始している。これは、参加を希望される新卒会員の先生方に、可能な限り参加しやすい環境を提供するためである。

リモート開催を実施して感じることは、既存の集合開催と異なり移動に時間を要さないことや、感染リスクを気にする必要がないため参加が制限されにくいことなど、メリットも大きい。一方で、通信環境の用意や資料の事前準備など、参加者・講師への負担が増加するというデメリットもある。

この原稿を書いている現時点でも、コロナウイルス感染は広がり続けており、来年度も集合開催は困難であることは想像に難くない。そのため、今年度に構築したノウハウを生かし、参加される新卒者の方々、講師の先生方の双方にとってより良いものとなるよう、更なる工夫が必要であると考えている。



参加者の視点から考える

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
望月 智佳

第 22 回言語聴覚士国家試験に合格し、4 月より春日居サイバーナイフ・リハビリ病院で働くことになりました。学生の頃は基礎知識を身につけるため、努力をしてきました。現在は ST として患者様のリハビリを行っておりますが、学生時代に学んだこと以上に学ぶことがあります。諸先輩の先生方からは知識や技術だけでなく、他職種の方々とのコミュニケーションの取り方などを教えていただいております。まだ緊張の日々の連続ですが、一つ一つ身につけていきたいです。

毎年卒後教育の一環として新卒者向けの研修が行われていますが、今年度は新型コロナウイルスの流行により、WEB での開催となりました。WEB 研修では先生方に言語聴覚士の役割の他、各分野についての基礎知識や検査を行う際の注意点など様々な分野についてご教授いただき、実際の臨床に役立つ知識を学ぶことが出来ました。また、臨床を行う上で、日々疑問が生じますが、研修会ではそういった疑問についても解説していただき、とてもありがたく思います。しかし、WEB 研修では実技が行えない他、他の病院の先生方とお目にかかることができず、寂しいようにも思います。今後、自分の知識を深め、自信をもって仕事ができるよう、様々な研修会に参加してみたいと思いますが、新型コロナウイルスが収束し、多くの先生方と交流ができることを望みます。

研修会レポート

COVID-19 の感染拡大により山梨県でも例年開催されていた研修会が中止されていましたが、昨年末よりオンラインでの研修会が企画・開催されるようになりました。

令和 2 年度山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会研修会

令和 2 年 11 月 30 日（月）に研修会が開催され、講師の吉永勝訓先生（C-RAT・監事）より、「災害時リハビリテーション～千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）の活動を通して～」をテーマにご講演をいただきました。

C-RAT は東日本大震災後に発足され、医師、PT/OT/ST、看護師、ケアマネージャーなどの多職種を構成メンバーとし、任意団体も含めた 10 団体で活動されています。千葉県は 9 つの地域ブロックが日頃から密に連携を図り、定期的に行行政主催の防災訓練にも参加し、地域住民や行政に向けて災害リハの周知に努めていることが紹介されました。また、2015 年の関東・東北豪雨（鬼怒川堤防決壊）、2016 年の熊本地震、2019 年の台風 15 号などの災害に対して、チーム派遣を実施しており、その活動も紹介されました。その他にも避難所運営ゲーム（HUG）やリハビリテーション本部運営ゲーム（REHUG）を実施されており、人材育成に向けた取り組みにも力を入れているようです。質疑応答では、山梨 JRAT の天野代表や佐藤副代表、山梨県作業療法士会の山本会長、また当会の内山会長などから質問が挙がり、災害リハに対する関心の高さが感じられました。

COVID-19 以降、大規模災害は発生していないものの、平時より感染症予防を念頭に入れながら災害に対する備え・支援を行わなければなりません。今回の研修会では、そのことを振り返り・もう一度考え直すとても良い機会になりました。

令和 2 年度第 1 回学術講演会

令和 3 年 1 月 14 日（木）に山梨県立中央病院 総合診療科・感染症科部長の三河貴裕先生をお招きして、「感染症の基礎知識/予防～現場のリハスタッフ（特に ST）が気を付けること～」をテーマにご講演いただきました。当日は、県士会員のみならず、他県士会の言語聴覚士も含め 65 名の参加者があり、オンラインでの講義を聴講しました。

講演では、社会現象ともなっている COVID-19 の基礎知識から始まり、つづいて感染症対策（標準予防策や COVID-19 に対する基本的な対策）について、そして今後の展開（ワクチン接種など）にまでおよび、短時間で非常に幅広い内容が講義されました。内容については、COVID-19 に対する PCR 検査の疑陽性・陽性・陰性に至るまでの考え方や COVID-19 の 2～3 割にみられる味覚障害では「ラーメンの汁が水に感じる」など現場でのご活躍されている先生ならではの専門的な話がされました。また、感染経路は飛沫感染・エアロゾル感染・接触感染が主であり、構音障害・失語症や摂食嚥下障害のリハビリテーションでお互いにマスクを外して口腔内外を観ることが多い我々は特に注意しなければならないことが話されました。感染を防ぐための工夫として、評価・訓練で行う“口型提示”についてもマスクを外す際にはアクリル板を用いることや、パソコンやテレビなどのモニターを通して提示するなど、具体的な工夫も示され、明日からすぐに活用できる内容で参加者一同画面に釘付けになりながら聴講しました。

最後に当会の内山会長より、「言語聴覚士は養成校過程で感染症については十分に学ばないまま現場に出ており、感染対策については現場での指導が中心であった。今日の講義で共通見解を持つことができた」とまとめられました。感染症対策については、これまで特段注目されることはありませんでしたが、コロナ禍において自身の感染症対策について、見直す良い機会になったと思います。医療職として、正しい知識と実践で、この厳しい状況が乗り越えられるよう努めていければと思います。

令和2年度秋期都道府県士会会長会議報告

山梨県言語聴覚士会 副会長 赤池 三紀子

令和2年11月7日(土)13時より3時間、春期同様オンラインにて開催され、画面の向こうに見慣れた深浦会長、立石副会長、長谷川副会長、内山副会長の執行部や都道府県士会長の元気な顔がありました。今回のトピックは士会員と協会員の一致化に関するアンケート結果を受けての討議でしたが、今一つ盛り上がり欠けた内容になったのは、各士会が現実抱えている問題が露呈され各論に終始してしまったからでした。話題については、以下の通りです。

1. 理事会からの報告

- A 総務部：永年会員を制定しました。65歳以上で20年以上継続して正会員であった方が対象です。退職と同時に退会される老練な経験者に引き続き会に残っていただきます。年会費は1000円で権利も正会員と同一です。
- B 災害対策部：支援金配分について、当会は令和元年台風19号の対象士会であり、昨年7月豪雨では当会のみが団体としての募金を行ったことも報告されました。
- C 広報職能部門統括：言語聴覚士のキャリアアップ(人材育成ラダー)の作成について報告があり、今後はこのラダーを念頭に人材育成がなされていきます。
- D 介護保険部：地域リハビリテーション活動支援事業に資する人材育成事業について28士会から修了書を発行した報告がありました。コロナ禍における集合開催では研修内容の一部変更も可能となりました。
- E 障害福祉部：実態調査の結果、放課後デイと学校教育との連携の重要性が明らかになり、学校教育部と共催でオンラインセミナーを開催した。
- F 学校教育部：学校教育にかかわるSTを対象に「COVID-19に対する感染対策」アンケート実施。
- G 学術研究部：令和3年度学術助成金制度「若手研究コース」の募集。

2. 士会員と協会員の一致化に関する件について

まず、令和2年定時総会において「協会の正会員は都道府県言語聴覚士会に入会する」と定款に追加表記されたことを受けてアンケート調査を実施した内容が報告されました。この結果をもとに各士会から意見が出されましたが、期待した意見は少なく、そもそも一致化とは何かという段階の意見交換になっていました。士会から協会への要望が多く、連携しながら言語聴覚士の認知度を上げて公益性を高めるという方向の前向きな意見が出なかったのが非常に残念でした。第50号の協会誌にも掲載された通り、最終的に組織の統一を図ることはすぐには難しい状況であることも深く懸念されました。

3. 日本言語聴覚学会の開催について

第21回日本言語聴覚学会の集合開催が中止となり誌上開催になった報告が茨城県言語聴覚士会草野会長よりありました。そして、第22回日本言語聴覚学会会長である愛知県言語聴覚士会中橋会長より、ハイブリッド形式にての開催予定の報告がありました。

感染症対策として今後もオンラインでの研修が中心になり、開催地まで足を運ばなくても受講できる研修会や講習会に多くの方に参加していただき、今だからできる資質の向上を図っていきたいと思います。当会でも今後一層、協会との連携を進めていきますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

災害時安否確認システム運用の紹介

災害対策支援委員会 赤池 洋
(山梨大学医学部附属病院)

近年の地震や豪雨災害の増加を受け、災害対策・対応における平時からの体制構築が急務となっています。災害時に会員の安否状況と各地域の被災状況を確認することで緊急性のある情報を迅速に把握し伝達することを目的とし、災害時安否確認システムを作成しました。入力方法は県士会ホームページから専用フォームにアクセスし、必要事項を選択・記載し送信する流れとなります。安否確認システムは①風水害等②地震③火山噴火④その他、に該当する際に運用します(詳細は県士会ホームページの専用フォームをご覧ください)。

令和2年9月1日には第1回予行演習を開催し、87名の皆様に参加していただきました。ご協力をいただき誠にありがとうございました。今後も定期的に予行演習を開催し、平時よりシステムが活用できるように努めていきたいと思っております。

*2017年に作成した圏域ごとの災害時安否確認は廃止とし、今後は安否確認システムを運用していきます。

聴覚・言語障害者のための「Net119 緊急通報システム」について

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史

Net119 緊急通報システムは、音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障害者が円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。

このシステムにより、火災や事故、災害、具合が悪くなった時など、スマートフォン等で簡単な操作をすることにより、全国どこからでも通報した場所や事前に登録した情報(住所や持病、かかりつけ病院など)が管轄の消防本部に分かるシステムです。

このシステムを導入することで、声を無理に出さなくても、音が聞こえなくても、119番通報ができるようになります。

対象は聴覚、言語機能に障害があり、音声電話による通報が困難な方(身体障害者手帳が交付されている者のほか、音声電話による緊急通報が困難であると消防本部が認めた者)とされていますが、笛吹市ではNet119 緊急通報システムの導入会議に言語聴覚士が参加することにより、失語症によるコミュニケーション障害や重度構音障害、喉頭全摘者の方々も身体障害者手帳の取得の有無にかかわらず対象となりました。

Net119 緊急通報システムは事前登録制のサービスとなります。登録や対応は対象者が生活する管轄の消防本部により異なります。

コミュニケーションに障害を持つ方を病院、施設から社会に復帰するための支援を行う言語聴覚士として当然の知識として知っておくことをお勧めします。

詳細は「総務省消防庁」などWebサイトをご覧ください。



2020年、友の会「ふじやま」の活動はコロナ禍の影響を大きく受けました。コロナへの不安は尽きませんが、山梨県で9月よりスタートした第1回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の会話実習では、毎回「ふじやま」の会員はじめ県内在住の失語症のある方々の協力をいただいております。久しぶりに開催された定例会では年賀状を作成しました。受講者の方々とのお互いのコミュニケーションの中にも笑顔がこぼれていました。

迎春



文字やイラストを貼ったり模写しながら年賀状を作成

第10回定例会（参加者36名）
2020年が終わる前に…全員集合！

「いつもありがとう！」
イラスト選びにも想いを込めて…



支援者養成！？
私がかになれるなら～

失語症者向け意思疎通支援者養成講習会
当事者の参加協力延べ人数（経過）

- ・コミュニケーション支援実習Ⅰー①～③ 20名
- ・外出同行支援実習①～② 15名

支援者がいてくれたら
生活が広がるのかな～

協力して下さる皆さんにも支援者養成に期待がうかがえます。

作成：「ふじやま」運営委員会

コロナ禍における県士会活動を振り返る

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 事務局長 河西 祐子

令和2年度は、新型コロナウイルス第1波の感染が拡大している中でのスタートとなりました。例年60名余の会場出席をいただいていた定時社員総会は、3密を避け感染拡大を防止する観点から、今年度は最少人数での開催とし、会員の皆様には書面表決をおすすめするという前例のない対応をとらせていただきました。また、平成29年度より総会終了後に開催していた新入会員歓迎会も無期限延期を余儀なくされました。

対外的な活動の自粛を求められている病院・施設も多く、総会後に開催された理事会には約半数の理事しか出席できず、コロナ禍での県士会事業の進め方について話し合うことができない状況でした。そこで、第3回理事会からはオンラインでの会議を実施しました。直接顔を合わせて意見や情報の交換ができないことは残念でしたが、理事全員の出席が可能となり、また事前に資料を配布することで会議の進行がスムーズになるというメリットもありました。理事会では、対面型の研修会や部会の開催が難しい中で、これまでおこなってきた学術活動や広報活動、各種委員会活動をどのような形であれば継続できるかを中心に検討してきました。

11月には、日本言語聴覚士協会からの「新型コロナウイルス特別支援金」(各県士会がコロナ禍での活動を継続するために行っている対応に対して一律5万円を援助)を活用して、県士会としてZoomのプロプランを契約しました。これによって、オンライン研修会を開催すること(100人まで)や手軽にビデオ会議を行うことが可能となりました。現在では、新卒者研修や学術講演会、各委員会の活動や部会などに積極的に活用されています。

新型コロナウイルスについて終息の兆しはみえず、今後もオンラインでの活動が主となることが予想されます。事務局では、Zoomミーティングのスケジュール調整や関連諸団体の研修会等も含め会員の皆様に有益な情報をタイムリーに発信できるよう努めていきたいと思っております。



<オンライン理事会の様子：理事・書記が職場や自宅から出席>

第5回 理事会議事録

日 時：令和2年8月20日（木） 19時03分～21時18分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、桂川、佐々木、
高橋、中嶋、舟越、山田、元木、吉澤、河西

<協議事項>

1. 基礎講座における必要物品について、事務局で購入済みの講師用アクリルパーテーション、非接触型体温計に加え、フェイスシールド・手指消毒ジェル等を生涯研修部で購入し、県士会内で共有して使用することが決定した。
2. 第1回講演会は、山梨県立中央病院総合診療科・感染症科部長の三河貴裕先生を講師に「感染症の基礎知識/予防～現場のリハスタッフ（特にST）が気を付けること～」(案)の内容で、オンラインで開催することが決定した。
3. 県士会会員の所属機関における新型コロナウイルスに対する対策についてのアンケートを10月に実施することとなった。
4. 県士会ホームページ会員向け専用特設サイトの開設について検討していくこととなった。
5. 県士会ニュース47号の企画と執筆者が承認された。

<報告事項>

1. 一社) 日本語聴覚士協会より「新型コロナウイルス特別支援金」、山梨県リハビリテーション病院・施設協議会補助金の入金があったこと、一社) 日本語聴覚士協会「令和2年度7月豪雨義援金受付」へ3万円寄付したことが報告された。
2. リハビリテーション啓発チラシの作成、県立図書館への書籍寄贈について報告された。
3. 令和2年度7月豪雨における被災県士会へお見舞い文を送付したことが報告された。
4. 自民党山梨県連に対し、山梨県の宿泊施設のバリアフリー化、あけぼの医療福祉センターで働く非常勤言語聴覚士の待遇改善、インクルーシブ教育推進事業の継続、脳卒中循環器法に伴う都道府県協議会委員へのリハ職の配置の4点を要望として提出したことが報告された。

第6回 理事会議事録

日 時：令和2年9月18日（金） 19時03分～20時37分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、桂川、佐々木、
高橋、中嶋、舟越、元木、山田、吉澤、河西

<協議事項>

1. 第1回学術講演会についてST協会の補助金申請を行うことが決定した。
2. 新卒者研修会はオンライン開催とし、終了後のアンケートはGoogleフォームを使用することが決定した。
3. 広報用の手提げポリ袋について、色やデザインを変更し、1000枚追加作製することが承認された。
4. 県士会ホームページのサーバー容量は現状の100GBとすることが承認された。
5. 災害時の安否確認の運用練習を4ヶ月に1回実施することが決定した。2017年に作成した圏域ごとの安否確認は廃止とし、災害対策本部は県士会所属病院・施設とすること、災害対策本部が被災した場合は、会長・副会長・事務局長4名で協議し災害対策事務局を設置することが承認された。
6. 会場参加型研修会における感染防止ガイドラインが決定した。

<報告事項>

1. 第1回山梨県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の開催が報告

された。

2. 11月7日にオンラインで開催される都道府県士会士会長会議に赤池三紀子副会長が出席することが決定した。

第7回 理事会議事録

日 時：令和2年10月16日（金） 19時00分～19時58分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、石垣、市川、桂川、佐々木、
高橋、中嶋、山田、元木、吉澤、河西

<協議事項>

1. 学術講演会の参加費について、県士会員で非協会員、関東圏域会員外の協会員、他職種のものも無料とし、資料も全員に配布することが承認された。
2. 広報用手提げポリ袋のデザイン案が決定した。
3. 第3回山梨県リハ専門職合同学術大会の当士会案として、来年度の開催方法については感染拡大防止のためにオンライン開催とする。1日開催とし、開催日は運営委員会に一任することが承認された。

<報告事項>

1. 総務部より法人クレジットカードの作成が報告された。
2. 第2回地域リハ従事者研修会実行委員会、山梨県介護支援専門員協会令和2年度在宅医療介護支援体制強化事業研修会が開催されたことが報告された。
3. 第2回・第3回山梨県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の開催が報告された。

第8回 理事会議事録

日 時：令和2年11月27日（金） 19時01分～20時46分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、
中嶋、舟越、山田、吉澤、河西

<協議事項>

1. 症例検討会について、2-3月頃にオンライン開催することが決定し詳細は生涯研修部で検討することが承認された。
2. 例年通り他施設の会員にバイザーを依頼し、メールとZoomでの指導を基本とすることとなった。
3. 県士会ニュース48号の企画案と執筆者が承認された。

<報告事項>

1. 法人としてZoomの申し込みを行ったことが報告された。
2. 教育部新卒者研修会認知症サポーター養成講座の開催、昭和町介護予防事業「おたっしや出前講座」への講師派遣について報告された。
3. 失語症友の会「ふじやま」第10回定例会の開催が報告された。
4. 令和2年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修（オンライン研修）を市川理事・舟越理事が受講したことが報告された。

開催方法：オンライン会議

議 長：内山量史

書 記：坂井李菜、高橋里実、佐藤孝貴

議事録作成：河西祐子

《各局からのお知らせ》

事務局

<総務部>

- ・会員動向をお知らせします（令和2年12月末現在）。
正会員数 132名 賛助会員 8団体
退会：南 曜子先生（石和温泉病院）
田中律子先生（石和共立病院）
浅川裕斗先生（甲斐リハビリテーションクリニック）
渡辺妙美先生（甲州リハビリテーション病院）
会員名簿記載事項に変更のあった方は「会員異動届」の提出をお願い致します。届出用紙は県士会HPからダウンロードできます。

<財務部>

- ・いつも会費納入にご協力いただきありがとうございます。12月末現在、未納会員は9名です。年度内の納入にご協力をお願い致します。

学術局

本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年に比べて活動が少なくなりました。今後Zoomを用いたオンライン講義等を企画しています。よろしくお願致します。

<教育部>

- ・第5回 新卒者研修会
日時：令和3年1月20日（水）18：15～
会場：Zoomで開催
内容：対人コミュニケーション
講師：中村晴江先生（甲府城南病院）
- ・第6回 新卒者研修会
日時：令和3年2月17日（水）18：15～
会場：Zoomで開催
内容：SLTAについて
講師：教育部部員
- ・第7回 新卒者研修会
日時：未定
会場：未定
内容：STのコミュニケーションに欠かせないもの
講師：赤池三紀子先生（湯村温泉病院）

<生涯研修部>

○学術講演会

- ・第2回 学術講演会
日時：令和3年2月26日 18：30～20：15
会場：Zoomで開催
内容：「言語聴覚士の過去・現在・未来～言語聴覚士のこれからに向けて～」
講師：深浦順一会長（一般社団法人日本語聴覚士協会）

- ・第3回 学術講演会
日時：令和3年3月26日 18：30～20：15
会場：Zoomで開催
内容：「地域リハビリテーション活動支援事業における言語聴覚士の役割と令和3年度介護報酬改定の動向」
講師：黒羽真美先生（介護老人施設マロニエ苑）

○症例検討会

- ・第1回 症例検討会
日時：令和3年3月18日
会場：Zoomで開催
発表者：萩野谷巧先生（県立中央病院）
バイザー：山田徹先生（笛吹中央病院）
スーパーバイザー：赤池洋先生（山梨大学医学部付属病院）

社会局

<渉外部>

- ・令和2年度秋期都道府県士会会長会議がオンラインで開催され、当士会代表として赤池三紀子副会長、協会代表として内山会長が参加されました。
- ・令和2年10月には「新型コロナウイルス感染対策に関するアンケート」を実施し、ご協力をいただきました施設にはアンケート結果を配信・送付させていただきました。今回のアンケート結果を参考に今後も感染対策に向けて情報共有していきたいと思っております。
- ・地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会に桂川理事が参加されました。令和3年2月6日には研修会（オンライン）が予定されています。

今後も日本語聴覚士協会や山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県介護支援専門員協会などの他団体との連携や行政との連携・協力を行ってまいります。また、各圏域で活躍されている会員と情報共有を行ってまいります。

<広報部>

- ・例年開催されています「高校生の一日リハビリテーション体験」が中止となり、代替として「リハビリテーション啓発チラシ」を作成し、関係各所に送付されました。
- ・県士会広報グッズのオリジナルポリ袋を1000枚作成しました。今後もイベント活動に制限が出てくると思いますが、一般の方々に向けた言語聴覚療法の広報及び啓発活動を行ってまいります。

<会報編集部・ホームページ管理部>

会報誌「県士会 NEWS48号」の発行を行いました。会報誌を通じて県士会活動の周知だけでなく会員間のコミュニケーションツールとして情報を伝えていきたいと思っております。また、ホームページでは今後リニューアルを含めて、県士会や言語聴覚士の広報活動の一助となるように情報の収集・発信を推進していきます。

編集後記

新年を迎え、令和に変わってから3年が過ぎました。本号が発行される頃、トランプ政権は4年で幕を閉じ、新政権が発足されていることでしょう。県士会ニュースではCOVID-19を特集に3回取り上げましたが、果たしてこの感染拡大は、あとのくらい続くのか、全く誰にも分らない状況です。さて、今年は“丑年”です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物で、大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢」を意味するようです。そして、「これから発展する前触れ」とも言われています。私たち、「一人一人の我慢が今後の発展に結びつくような一年になって欲しい」と願っています。（桂川 謙祐）

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

- <発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会
- <発行人> 内山 量 史
- <編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集・HP管理部
- 石 和 共 立 病 院 原 田 史 佳
- 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 志 摩 美 月
- 甲 府 城 南 病 院 秋 山 仁 哉・桂 川 謙 祐
- 湯 村 温 泉 病 院 関 大 樹
- 山梨大学医学部付属病院 赤 池 洋
- <事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町固府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
- <発行日> 2021年2月1日 第48刊

やさしい聴こえのお手伝い



- 認定補聴器技能者在籍
- 試聴器の無料貸出
- 支援法補聴器取り扱い

写真：シグニア補聴器 スタイレット 充電式

認定補聴器専門店

山梨リオン補聴器センター

甲府店 ☎ 0120-29-3321 玉穂店 ☎ 0800-800-8173
甲府市中央 5 丁目-29 中央市若宮 29-3 T-ウエスト

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。



Atos
Breathing-Speaking-Living

株式会社アトスメディカルジャパン

〒104-0033 東京都中央区新川 1-3-19 新川三幸ビル 2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

病院で使われている介護食を、
ご家庭にお届けしています。

在宅 通信販売



高栄養・やわらかい
飲み込みやすい
をサポート

噛むこと、飲み込むことが苦手な方に
飲食時によくむせる方に 食の細い方に

「はつらつ食品」カタログにはこんな商品が掲載されています
・食べ物や飲み物に混ぜるだけで簡単にトロミをつけられるトロミ調整食品
・むせにくいゼリータイプの飲料
・食べやすく飲み込みやすくなった食品
・飲んだりチューブを用いて摂取出来るバランス栄養食品



病態別にたんばく制限用、カロリー制限用カタログもご用意しております

株式会社ヘルシーネットワーク TEL 0120-236-977
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3 FAX 0120-478-433
受付時間 月～土 午前9:00～午後5:00 (日・祝日は休業日となります)
インターネット ヘルシーネットワーク 検索
https://healthynetwork.co.jp

スベラカーゼ

酵素でベタツキ分解

主食・主菜・副菜・汁物・デザート・飲料…
お粥はもちろん、すべての食事に



おいしい、もぐもぐ、ごっくん
foodCare JAPAN TEL: 042-700-0555 www.food-care.co.jp

どろみ調整食品
売上 No.1
2018年版トロミ調整区分
食シード・プランニング調べ

おいしさそのままに
サッと溶けてトロミづけ

0120-52-0050
受付時間：平日9:00～17:30(土・日・祝、年末年始、5月1日を除く)

森永乳業グループ病態栄養部門
株式会社 クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-Sal

Pepti-sal (ペプチサル)とは、
「Peptide (ペプチド) +
「Saliva (唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、
お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方のケアにもおすすめです。

2014年12月発売

T&K ティーアンドケー株式会社 ☎ 0120-555-350
受付時間：平日9:00～18:00(土・日・祝日を除く) www.comfort-tk.co.jp

「医療専門家 × 医療機器ベンチャー × フードケア」
連携の新会社 カレイド株式会社

何気ない普段の「おいしい、もぐもぐ、ごっくん」の三拍子が、
上手できない方々への「あきらめない」を応援したい。

4年目のカレイド、そして
「ジェントルシステム干渉電流低周波治療器」を
よろしくお願いたします。

オエムジーファミリー QOL(生活の質)を支える「摂食・嚥下ケアカンパニー」として日本から世界へ

「ケア食品」で毎日を美味しく 株式会社 フードケア
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444

「ケア機器」で毎日を支える カレイド株式会社
TEL: 042-700-8830 FAX: 042-700-8840

誤嚥リスクの低減
新しい背上げ
ハイバックサポート機能

P300
シリーズ

医療・介護ベッドメーカー
株式会社 プラッツ
http://www.platz-ltd.co.jp/

■関東支店 / 関東ショールーム
〒105-0014 東京都港区芝2-16-9 芝YSビル3F
TEL.03-5427-8033 FAX.03-5427-8031

■福岡本社 ■北海道 ■宮城 ■東京 ■愛知 ■大阪 ■広島